

## 光星学院、比に一貫校開校

# 少子化、海外に活路

学校法人光星学院(八戸市)はフィリピンの教育財団などととも、同国に中高一貫校「八戸学院カール校」を開設した。日本の人材不足を軽減し、フィリピンの若者に日本での就労機会を与える取り組みが始まった。光星学院は、地方で深刻化する少子化を見据え、海外戦略に活路を見いだす。

陣が県内などで働き始める。就労に必要な日本語の訓練を含めた人材育成・紹介事業を収益源の一つとしたい考えだ。

フィリピンの人材が介護福祉士の国家資格を目指す場合は、八戸学院大の短大部介護福祉学科(19年度新設予定)への留学を想定する。逆に、英語が公用語であるフィリピンに向け、八戸学院大生の留学を推進するなど、系列校を含め国際理解を重視した教育を展開する構想もある。

【本記1面】

開校と並行し、光星学院の関連企業「八戸学院グループ」(HGG)は、フィリピンの大学生や既卒者らを働き手として日本の事業者を紹介する事業に着手した。2019年春にも第1

SEAN)加盟国中、比較的高い水準にあり、雇用の確保が課題となっている。人口約1億人の一定数が、職を求めて海外に出ている。

HGGの大谷真樹代表取締役社長(光星学院国際教育局長)は「人口減少の中

で、国際化を特長に(光星学院の)ブランドの構築を意識している」と話す。海外人材育成については「日本を理解し働く意欲がある生徒を伸ばす。人材発掘、育成、定着—のモデルをつくる」と展望している。

(新村菜穂)